

法政大学

冲縄文化研究所



HOSEI University
Institute for Okinawan Studies

ごあいさつ

法政大学沖縄文化研究所は、沖縄の施政権が米国から日本に返還された1972年に、中野好夫氏が主宰していた「沖縄資料センター」の収集資料が法政大学に移管されたことを契機に創立され、2022年に50周年を迎えました。

その間、本研究所は、奄美諸島から先島(宮古・八重山)諸島にいたる琉球列島とその周辺地域の文化、社会に関する研究成果を蓄積するとともに、沖縄研究の世界的な広がりに応じ、日本内外の研究者を結ぶネットワークづくりに努め、東京における沖縄研究の拠点として中心的な役割を果たしてきました。

沖縄は古くから東アジアや東南アジアと関係をもち、15世紀に統一された琉球王国は海洋貿易国として繁栄しました。明治期に日本に併合された後も、さまざまな問題と向き合い続け、生活の中には今なお独自の文化が息づいています。

沖縄文化研究所は、これからも沖縄の研究を通じて、日本における多様性や、国際社会における諸問題などについて考察し、社会に発信する活動を続けてまいります。

今後ともご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。



沿革

法 政大学沖縄文化研究所は、沖縄の施政権が米国から日本に返還された1972年、当時の法政大学総長・中村哲を所長に、外間守善文学部教授を副所長として創設された。所員には、学内の高藤武馬、小川徹、山本弘文の各専任教授が就任した。そして、中野好夫、服部四郎、比嘉春潮、仲宗根政善の各氏を客員所員に、さらに東京近郊や沖縄在住の奄美・沖縄地域の研究者を委託研究員および地方研究員として迎え、研究所活動が開始された。研究所施設は当初、港区の麻布校舎2階に置かれたが、1981年に市ヶ谷キャンパス第一校舎に移り、その後2000年に新設されたボアソナード・タワー21階に移転し現在に至っている。

研 究所設立の直接的な契機は、中野好夫が私費を投じて主宰していた「沖縄資料センター」の資料が、無償で法政大学に移管されたことにある。同センターは、沖縄の問題が日本の大きな政治課題となった1960年代初めに、沖縄の実情を本土に知らせるために設置された。新崎盛暉が中心となって収集された「沖縄資料センター」資料は、沖縄に関する新聞記事や、沖縄および本土における「復帰」関係の記録などを含み、米軍統治下の沖縄の実態を検証するために必要な重要資料

が多く保存されていた。しかし、研究所創立当時は、大学の方針に基づき、政治問題への対応よりも沖縄の文化について理解を深めるための学術機関としての調査研究が活動の中心となった。特に初期は、久米島、久高島、渡名喜島など、沖縄の島々を学際的な視点から総合的にとらえるための調査研究を積み重ねている。その後、琉球が古くから交流し相互に影響を受けてきた、東アジアや東南アジア地域にまで視野を広げ、その中に沖縄を位置づける研究活動も行うようになり、国際シンポジウムも開催してきた。近年は、本土における沖縄に関する市民活動の原点である「沖縄資料センター」の志に立ち返り、沖縄が抱える問題についても積極的にシンポジウムなどを開催し、情報発信を行っている。

現 在の研究所は、学内所員（専任・兼任）、学外所員（兼任・客員）、国内研究員、奨励研究員（学生）、客員研究員（海外在住者）、事務員から構成されている。また、公開講演会・総合講座の開催、閲覧室の一般開放など、学外に開かれた研究所活動を心がけており、沖縄県外で唯一の施設を有する沖縄関連研究所として、沖縄研究の拠点としての役割を果たすべく活動を続けている。



中野 好夫



新崎 盛暉



中村 哲



外間 守善



写真は「中山花木図」

研究所略年表

年月	活動・イベント等	
1972年 7月	法政大学沖縄文化研究所創設(港区南麻布 元工学部校舎2階)	
1973年 6月	『法政大学沖縄文化研究所所報』第1号発行	
1973年 7月	第1回公開講演会を沖縄県那覇市にて開催	
1974年 6月	紀要『沖縄文化研究』第1号刊行	
1975年 9月	『琉球の方言』第1号刊行	
1978年 9月	研究所創立6周年記念講演会、および沖縄学市民講座を那覇市にて開催	
1979年 7月	「沖縄県久米島における言語・文化・社会の総合的研究」の調査開始(～1982年)	
1980年～		
1981年10月	千代田区富士見(市ヶ谷キャンパス)第一校舎に移転	
1982年 3月	『沖縄研究資料』第1号(沖縄資料センター目録—中野好夫記念文庫)刊行	
1982年 4月	「沖縄久高島の言語・文化の総合的研究」の調査開始(～1985年)	
1982年10月	『沖縄久米島』刊行	
1982年10月	研究所創立10周年記念国際シンポジウム「沖縄文化の古層を考える」を開催	
1983年10月	『沖縄久米島—資料編』刊行	
1984年 4月	『沖縄久米島の総合的研究』刊行	
1985年 2月	『沖縄久高島調査研究報告書』刊行	
1986年 3月	『沖縄文化の古層を考える』刊行	
1986年 9月	「沖縄渡名喜島における言語・文化の総合的研究」の調査開始(～1989年)	
1987年10月	研究所創立15周年を記念して古典舞踊の会、沖縄学市民講座を法政大学多摩校舎で開催	
1990年～		
1990年 4月	海外学術研究「中国福建省・琉球列島交渉史の研究」調査開始(～1993年)	
1990年 4月	「失われた集落・小湾一聞き書きによる復元」受託研究開始(～1994)	
1991年 7月	『沖縄渡名喜島における言語・文化の総合的研究』刊行	
1992年 9月	研究所創立20周年を記念して、講演会・琉球古典舞踊の会・沖縄古文書展を那覇市にて開催	
1994年 4月	「沖縄県八重山の総合的研究」の調査開始(～1997年)	
1995年 1月	『浦添・小湾方言辞典』刊行	
1995年 2月	『小湾字誌—沖縄戦・米占領下で失われた集落の復元』(付:小湾集落復元図)刊行	
1995年 2月	『中国福建省・琉球列島交渉史の研究』刊行	
1995年12月	『小湾字誌』によって沖縄タイムス賞(沖縄タイムス社)受賞	
1997年 4月	『小湾字誌』によって風土研究賞(日本地名研究所)受賞	
1998年11月	国際シンポジウム「アジアのなかの琉球・世界のなかの沖縄」を沖縄と東京で開催(～12月)	
2000年～		
2000年 2月	『沖縄八重山の研究』刊行	
2000年 2月	市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー21階に移転	
2001年 4月	「琉球列島における社会的、文化的ネットワークの形成と変容に関する総合的研究」の調査開始(～2003年)	
2001年11月	研究所創立30周年を記念して、琉球舞踊「南風の想い 新垣典子の会」開催	
2002年 3月	研究所創立30周年記念企画展「写真でみる近代の沖縄」開催(共催 沖縄県公文書館)	



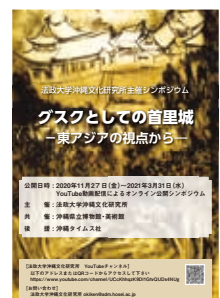
法政大学麻布校舎(1980年当時)



沖縄タイムス表彰楯



年月	活動・イベント等
2002年11月	研究所創立30周年記念企画展「沖縄文化研究所所蔵 貴重文献展」 (共催 法政大学資格課程)(～12月)
2004年 4月	「東・東南アジアにおける沖縄の地域間ネットワークの形成と変遷に関する総合的研究」 「琉球・沖縄文化とアイヌ文化の比較研究—ヤマト文化を媒介として」調査開始(～2007年)
2006年 8月	沖縄文化研究所サマーセミナー開催
2007年 5月	連続講座「沖縄を知る、沖縄から学ぶ」開講(～8月・全15回)
2008年 1月	関西大学東西学術研究所・法政大学沖縄文化研究所交流研究会開催
2008年 9月	沖縄ドキュメンタリー映画祭「世(ユー)を見る、繋ぐ」開催(～10月)
2009年 1月	法政大学古典芸能の夕べ「琉球舞踊と能の至芸」開催(共催 法政大学能楽研究所)
2009年 4月	総合講座「沖縄を考える」開設(～現在・年間24回～28回)
2009年 4月	「琉球・沖縄文化の形成と外的衝撃—古代～中世並行期を中心に」 調査開始(～2012年)
2009年 7月	「楚南家文書」修復・複製事業開始(～2013年)
2009年12月	国際シンポジウム「日本にとって沖縄とは何か—沖縄史の三つの転換点を再考する」 開催(共催 法政大学国際日本学研究所)
2010年～	
2010年 3月	シンポジウム「普天間—いま日本の選択を考える—日米安保と環境の視点から」開催
2010年12月	「宮古島の神歌と古謡」開催(共催 ATALASネットワーク)
2011年 6月	大城弘明写真展「沖縄・終わらない戦後」開催
2011年 6月	「森口豁の沖縄ドキュメンタリーシアター」開催(～2012年5月・全3回)
2012年 4月	関西大学東西学術研究所特別講演会「琉球と蝦夷地—北海道の地域社会と私たち」(共催)
2012年11月	沖縄「本土復帰」40周年記念シンポジウム『「復帰」40年、これからの40年』開催
2013年 8月	『沖縄の自立と日本—「復帰」40年の問いかけ』刊行
2013年11月	国際有機農業映画祭「土くれを握りしめて—命どう宝・有機農法がつくる世界へ」開催 (共催 国際有機農業映画祭運営委員会)
2014年 4月	普天間・辺野古問題を考える会シンポジウム 「沖縄の問いにどう応えるか—北東アジアの平和と普天間・辺野古問題」開催(共催)
2014年11月	普天間・辺野古問題を考える会連続講座「沖縄の地鳴りを聞く」開催 (～2015年1月・全3回)(共催)
2015年 7月	シンポジウム「東アジアの平和をどう導いていくか—日本、中国、そして沖縄から 戦後70年を問いなおす」開催(共催 日本中国友好協会)
2015年 9月	文化経済フォーラム：ドキュメンタリー上映会「沖縄映像祭in TOKYO」、 シンポジウム「普天間基地問題とメディア報道」開催(共催)
2016年 3月	日本映像民俗学の会大会「海域の植民地、その映像と記録」開催(共催)
2016年11月	世界平和アピール七人委員会講演会 「沖縄は日本なのか—＜平和＞を軸として考える」開催(共催)
2017年10月	東京新聞・琉球新報社：東京・結・琉球フォーラム「知らない・知りたい沖縄」開催
2019年 3月	「新崎盛暉さんの業績を振り返り引き継ぐ会」開催 (共催 新崎盛暉さんを偲ぶ会・東京)
2020年11月	シンポジウム「グスクとしての首里城—東アジアの視点から」開催 (共催 沖縄県立博物館・美術館)
2022年 7月	創立50周年





研究所の活動



刊行物

『沖縄文化研究』（紀要）

年1回発行。沖縄・奄美地方の言語・歴史・社会・民俗・文学・考古・政治・思想・経済など多岐にわたる論文、調査報告、研究ノートを収録している。



『沖縄研究資料』

不定期発行。本研究所所蔵の貴重史料を中心に、翻刻・影印および解説等を収録し刊行している。これまで、『沖縄研究資料センター目録』『尚侯爵家御蔵本目録』『近代沖縄詩集成』『楚南家文書（呈稟文集）』などを刊行してきた。



『琉球の方言』

年1回発行。琉球諸島の各地域の言語を調査し、消滅の危機に瀕している琉球語を詳細に記述し、資料化している。



『法政大学沖縄文化研究所所報』

年2回発行。研究所の運営、研究活動、沖縄研究に関する新刊ニュース、新聞記事情報、学会ニュースなどを掲載し、沖縄研究の動向を伝えている。

沖縄文化研究所監修「叢書：沖縄を知る」

本研究所の所員・研究員による研究成果を一般学術書として広く公表し、社会還元を図るため、出版助成を行っている。

- ◆ 間宮厚司著 『沖縄古語の深層—おもろ語の探求』（2008年）
- ◆ 仲程昌徳著 『沖縄文学の諸相—戦後文学・方言詩・戯曲・琉歌・短歌』（2010年）
- ◆ 久万田晋著 『沖縄の民俗芸能論—神祭り、臼太鼓からエイサーまで』（2011年）
- ◆ 加藤久子著 『海の狩人沖縄漁民—糸満ウミンチュの歴史と生活誌』（2012年）
- ◆ 梅木哲人著 『新琉球国の歴史』（2013年）
- ◆ 間宮厚司著 『沖縄古語の深層—おもろ語の探求<増補版>』（2014年）
- ◆ 中俣均著 『渡名喜島—地割制と歴史的集落景観の保全』（2014年）
- ◆ 屋嘉宗彦著 『沖縄自立の経済学』（2016年）
- ◆ 島村幸一編 『琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究』（2020年）





総合講座「沖縄を考える」の開講

法政大学在校生と一般聴講者を対象に、沖縄県内外から沖縄に関する様々な分野の研究者、芸能・文化にたずさわっている講師を招き、毎週オムニバスの講座を開講してきた。2009年から、年間約30回開催し、これまで約300回の講義を行っている。



2018年度 法政大学沖縄文化研究所 総合講座「沖縄を考える」

■日 時：毎週金曜日 午後3時～4時40分
■場 所：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート5階 G503教室
※昨年度と場所と時間が異なりますのでご注意ください。

【春学期日程一覧】

月	日	回	講師	講座内容
4月	13日	1	中俣 均	ガイダンス
	20日	2	大里 知子	「沖縄」の学び方入門
	27日	3	上里 隆史	前近代沖縄（琉球）史概説
5月	11日	4	近藤 健一郎	沖縄近代史概説 1
	18日	5	近藤 健一郎	沖縄近代史概説 2
	25日	6	上原 こすえ	沖縄戦後史概説
6月	1日	7	佐古 忠彦	あなたはカメラロールを知っていますか？
	8日	8	豊見山 慶	沖縄の戦後復興と美術
	15日	9	河村 雅美	沖縄の基地と環境汚染
	22日	10	宮城 大蔵	歴史的経緯から見る普天間・辺野古問題
	29日	11	屋嘉 宗彦	うちなーぐちで考えるということー言葉と認識
7月	6日	12	匂 健次郎	「奄美」への語り～自然・歴史・文化
	13日	13	古謝 美佐子 佐原 一哉	沖縄のこころのうた（実演）
	20日	14		レポート提出日（学生のみ）

公開講演会・シンポジウム等の開催

公開講演会は1973年の第1回開催以来、年数回開催しており、これまで140回程度開催している。シンポジウム等は、外部機関とも協力しながら年1回程度開催している。





所蔵資料



貴重文献



◆ 中野好夫文庫 (約5000点)

英文学者の中野好夫が主宰していた「沖縄資料センター」が、「沖縄返還」運動のとり組みのなかで沖縄の実情を本土に知らせるために収集した資料。多種多様な組織・団体の活動記録等が網羅的に保存されており、沖縄現代史を考察する上での重要資料が多く含まれる。



◆ 伊波普猷 資料 (約150点)

「沖縄学の父」と称される伊波普猷が、おもろ研究などの際に記したノートや、『沖縄歴史物語』の原稿など、貴重な自筆資料を含む。

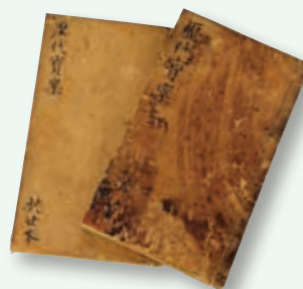


◆ 仲原善忠資料 (約200点)

◆ 金城朝永資料 (約150点)

◆ 赤木文庫 (横山重・琉球関係) (約150点)

◆ 琉球古文書資料 (約80点)



赤木文庫



琉球古文書資料



その他の資料

◆ 楚南家文書（約300点）

琉球王国の外交を担当していた久米村の士族、楚南家に伝えられてきた18世紀～19世紀の漢籍。中国との外交に関する実務文書や、「官話」（公用語）を学ぶための教科書など貴重資料が収められている。



◆ 図書・雑誌（約3万冊）

沖縄、奄美、南島関係の和書および洋書、各種雑誌、大学・学術機関の紀要、逐次刊行物

◆ 新聞

- ・琉球新報
- ・沖縄タイムス
- ・南海日日新聞
- ・宮古毎日新聞
- ・八重山毎日新聞

（原紙、縮刷版、マイクロフィルム等）



◆ 視聴覚資料

CD、ビデオテープ、DVD、マイクロフィルムなど

シーサー

壺屋焼（沖縄を代表する「ヤチムン（焼き物）」）の名工、島常賀氏による作品。

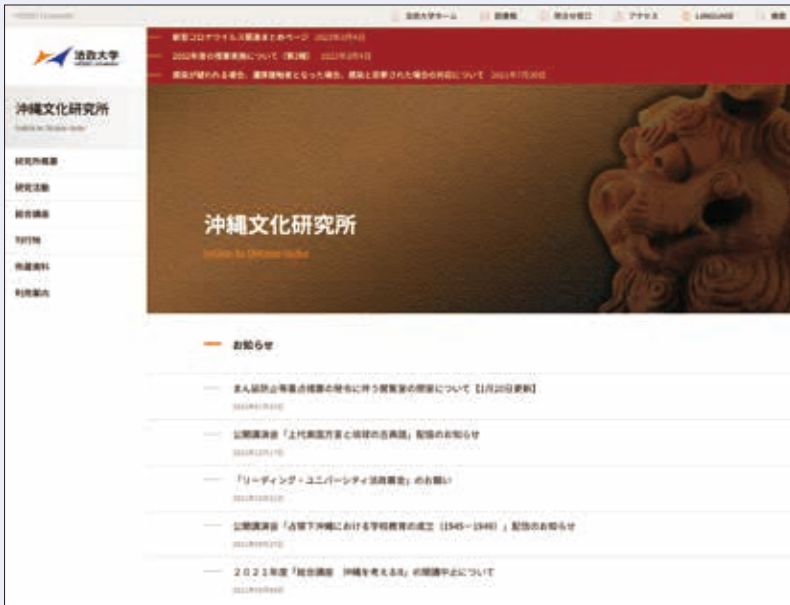
1977年に法政大学校友会沖縄支部から寄贈されました。宮古島産のトラパーチン（大理石の一種）が貼られた台座を含めると、高さは1.6mもあります。長年、沖縄文化研究所の守り神として鎮座しています。



情報発信ツール



法政大学沖縄文化研究所では、Webサイト・facebook・ツイッターにより、講演会・シンポジウムなど研究所の活動に関する情報を発信しています。



法政大学沖縄文化研究所 YouTubeチャンネル

2021年、対面での公開講演会やシンポジウム開催が難しくなり、インターネットを活用した情報発信の場としてYouTubeチャンネルを開設しました。沖縄に関する最新の研究を発表する講演会や、新刊の書評会、沖縄文化研究所主催のシンポジウムなどの動画をアップしています。(期間限定配信のコンテンツも含まれます。)



HOSEIミュージアム： デジタルアーカイブ

沖縄文化研究所が所蔵する貴重文献の一部は、「HOSEIミュージアム：デジタルアーカイブ」にて、デジタル画像を閲覧することができます。





資料の閲覧

- ◆ 閲覧室は、どなたでもご利用できます。
- ◆ 入室の際は、身分を証明するものを持参し、氏名・所属などを所定の用紙に記入してください。
- ◆ 図書・資料の貸出はしていません。
- ◆ 室内の資料はご自由に閲覧ください。
- ◆ 資料の所在は、インターネットで法政大学図書館OPACから検索できます。
- ◆ 閲覧した資料を「閲覧票」に記入し、閲覧票入れにご提出ください。
- ◆ 使用後は必ず所定のラックまたは元の位置に戻してください。
- ◆ 閉架資料をご利用の方は、閲覧票に巻号・請求記号等を記入し、事務室に請求してください。
- ◆ 貴重文献の閲覧および複写は事前の申請が必要です。詳細は事務室にお尋ねください。
- ◆ 閲覧室内は飲食禁止です。施設美化にご協力ください。



開室日・利用時間

* 開室日

月・水・金 10:00～20:00
火・木 10:00～16:00
昼休み 12:00～13:00

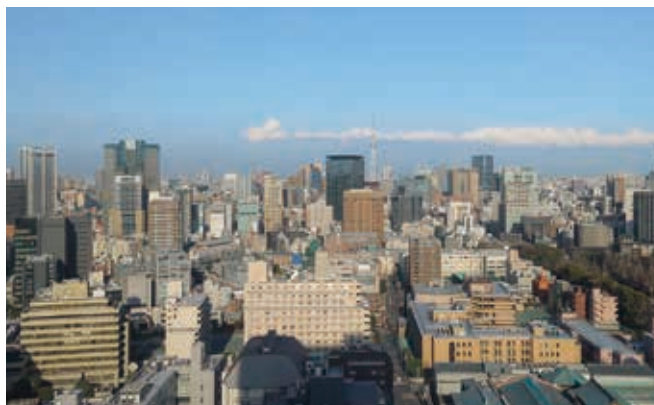
* 閉室日

土・日・祝祭日

夏・冬・春季休暇中、大学行事や入学試験等による、開室時間の変更・臨時閉室があります。その他、やむを得ない理由による臨時閉室など、利用に関する変更等は、本研究所ホームページ等でお知らせします。

閲覧室から見える 千代田区九段の風景

写真の中央あたりに、かつて琉球の国王家であった尚家の屋敷跡地が見えます。1879年に最後の国王尚泰がこの地に移住させられて以降、明治期に沖縄から東京へ来た人びとの多くが訪れていたと思われま。



交通アクセス

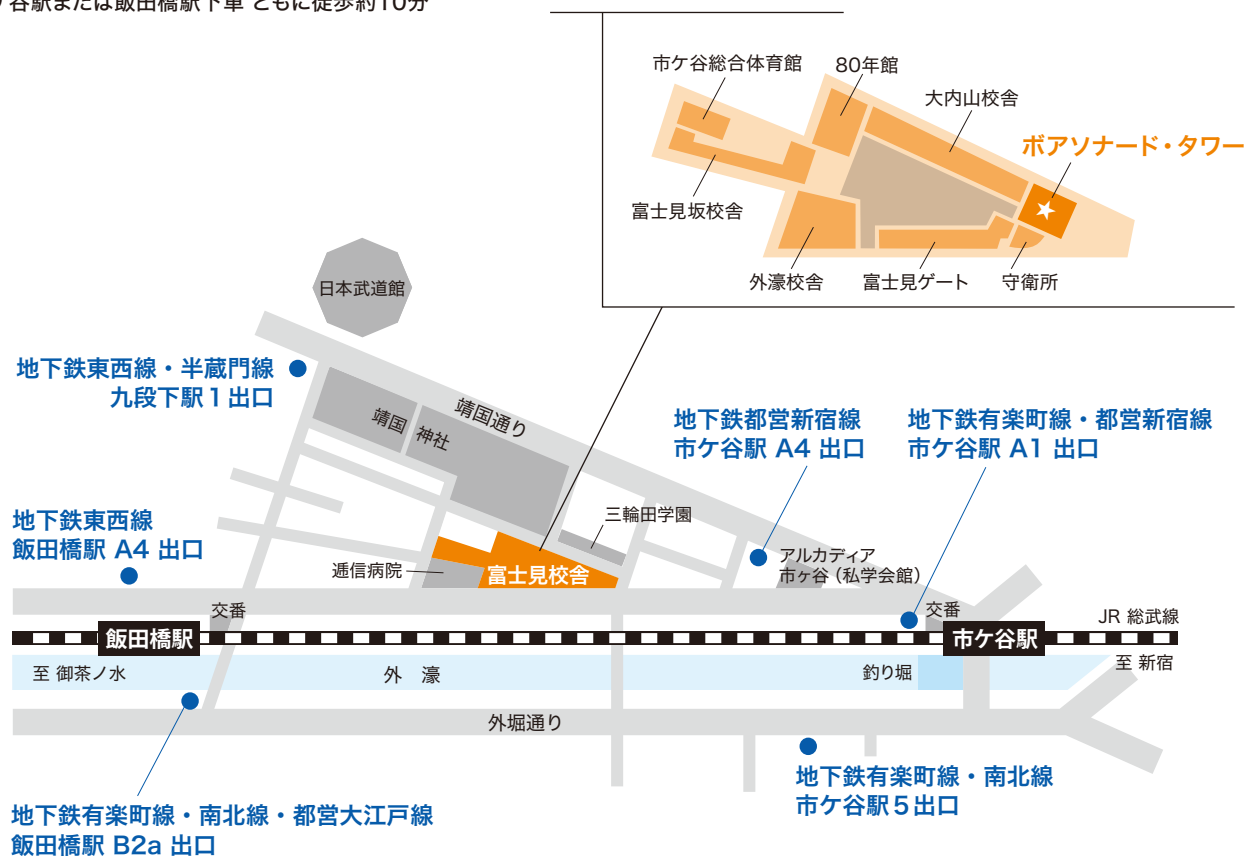
法政大学市ヶ谷キャンパス

富士見校地 ポアソナード・タワー21階

JR線・地下鉄：

市ヶ谷駅または飯田橋駅下車 ともに徒歩約10分

富士見校地内の各校舎配置



法政大学沖縄文化研究所

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 BT21 階
TEL : 03-3264-9393 FAX : 03-3264-9335
E-mail : okiken@adm.hosei.ac.jp
<https://www.hosei.ac.jp/okiken/>